KATO
PRECISION RAILROAD MODELS

ジョイフルトレインの競演時代が、
今、よみがえる。

スーパーエクスプレス レインボーの時代

1987～2000

国鉄が分割民営化され、JRに移行した1980年代から90年代に向けては、「ジョイフルトレイン」が競演した華やかな時代でした。多くは車両寿命が近づいた急行形気動車や電車、そして急行形客車の12系、特急形の14系からの改造車として誕生しました。その中でも昭和62年（1987）にデビューした〈スーパーエクスプレスレインボー〉は、白い車体に真っ赤な斜めストライプのデザインが、それまでの鉄道車両にはなかった新鮮さを放ちました。主にJR東日本管内を中心に運転されましたが、ニーズに応えて北海道から九州まで幅広く遠征をしました。牽引機関車として、赤い車体に白文字で形式番号が大書され、客車とデザインを統一した塗装を施されたEF65 1118が、平成9年（1997）に登場しました。平成9年（1997）には「さよなら碓氷峠レインボー号」として、信越本線横川― 軽井沢にも運転されたほか、写真は平成12年（2000）3月に運転された「さよならスーパーエクスプレスレインボー号」です。あざやかな専用カラーをまとったEF65 1118とEF81 95が重連で牽引にあたり、多くのファンの注目を浴びました。

- ●スロフ14のテールサインを改良。美しく点灯。（DCCフレンドリー化）
- ●スロフ14の機関車連結側カプラーをボディマウントタイプに変更。取り付け部にはジャンパ栓を装備して、実感的な表情に改良。
- ●オロ14は、車端部床下機器を装備。（台車マウント式）
- ●EF65 1118は、最新仕様のEF65として、初の製品化。

赤いアイツが
帰ってくる。

EF65 1118

EF81

好評発売中 「カシオペアクルーズ」基本セットのEF81 95も牽引機としてお楽しみください！